

AJU 第1陣緊急支援・活動報告

やっぱり障害者は避難所に避難できない!?

2016年4月20日(水)～4月23日(土)

目的

- 避難所の間仕切りセット、エアマットほか、支援物資を届ける
- 現場でしか得られない被災障害者のニーズを正確に把握し、次の支援課題を整理する

活動概要

(1) 派遣スタッフ

①永坂建太	サマリアハウス
②二ノ宮誠	マイライフ
③望月浩司	マイライフ
④木村友紀	マイライフ岩倉
⑤梶川翔平	わだちコンピュータハウス
⑥津田修吾	わだちコンピュータハウス
⑦水谷 真	わだちコンピュータハウス

(2) 使用車両

生活塾号（ハイエース）、ヴィッツ（福岡で借りたレンタカー）、10トントラック（メーフ）

(3) 救援物資

避難所間仕切りセット（42セット）、エアマット（20セット）、ユニットイレ、災害用使い捨てトイレ、水、食料、日用品、ほか

(4) 派遣期間 2016年4月20日(水)から4月23日(土)

第1陣行程表

日程	活動内容
4/19 (火)	AM 準備品確認、メーフへ搬入作業
	PM メーフ10トントラック積込
4/20 (水)	09:00 派遣スタッフわだちを出発（ハイエース）
	19:00 宿泊地（福岡）着、宿泊7名（アークホテルロイヤル福岡天神）
4/21 (木)	07:30 生活塾号福岡 発
	08:00 トヨタレンタリース長浜店 092-716-0100 ヴィッツを借りる
	08:30 九州自動車道 菊水IC→県道309→県道208→県道31号線経由
	10:30 熊本市北区役所着 トラックと合流 荷降ろし（間仕切り22箱）
	▼ヴィッツ組...梶川、二宮、木村
	12:30 トラックとともに益城町保健福祉センターへ移動
	15:00 残りの物資降ろし、間仕切りセットの仕分け、組立説明
	▼ハイエース組...水谷、津田、望月、永坂
	13:30 AARに間仕切り2セットを引き渡し、大室さん、船越さんと面談
	15:00 くまもと障害者労働センター訪問、倉田代表と面談、穴戸監督と合流
	16:00 熊本学園大学訪問、物資渡し 東弁護士、ヒューマンネットワーク熊本日隈代表ほかから聞き取り
20:00 ファミレスでハイエース組とヴィッツ組が合流	
22:30 宿泊地着（若手組3名オレンジ村、その他4名東横イン久留米東口店）	

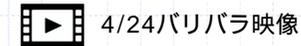
第1陣行程表

日程	活動内容
4/22 (金)	08:00 宿泊地発
	09:30 熊本北区役所でハイエース物資積み替え。益城町保健センターへ
	13:30 昼食、世界宗教者会議と面談
	▼ヴィッツ組...津田、水谷
	14:00 被災地障がい者センターくまもとの会議にオブザーバー参加
▼ハイエース組...梶川、二宮、木村、望月、永坂	熊本市社会福祉協議会 東区事務所 田上さんから聞き取り
	熊本市北区役所 大久保さんからの聞き取り
	21:30 宿泊地(福岡)、宿泊7名(アークホテルロイヤル福岡天神)
4/23 (土)	08:00 トヨタレンタリース長浜店 開店と同時にヴィッツを返却
	08:30 福岡 発
	20:00 わだち 着

5

ヒューマンネット熊本からの聞き取り

- 避難先＝熊本学園大学を訪問したとき、メンバーは重要なミーティング中。
- 帰りたかどうかそろそろ決めるべき時期だと、日隈代表がメンバー一人ひとりに尋ねていた。
 - ① 自宅を片付けて帰る
 - ② 避難所に残る…自宅は片付けだけで帰れない、倒壊の恐れも
 - ③ センターの体験室利用、もしくは他県の当事者団体へ
 - ④ ホテル・旅館へ避難
 - ⑤ ヒューマンの地域活動センターのスペースを利用して避難
- ヒューマンネットワークのメンバーはもともと70-80人、うち40名ほどが熊本学園のホールに避難。
- 医療的ケアの必要な人は、発災直後に自己判断で病院避難を選んだ。(届けたカテーテル、滅菌ガーゼ等は役に立たなかった)



7

益城町保健福祉センター

- 間仕切り納入
事前の準備不足から組み替えに多大な時間を要した。
- 保健福祉センターには1000人規模の住民が避難生活を送り、足の踏み場もないほど。廊下やトイレの前も埋まり、一部は屋外の軒下まで。
- 保健福祉センター自体が倒壊の心配から近々退去しないといけない。2km先の総合文化センターを修復でき次第、集団避難の予定。
- A J Uが届けた間仕切りセットは、避難してくる前に文化センター内に組み立てて世帯用に使ってもらうとのこと。

6

ヒューマンネット熊本からの聞き取り

- 熊本市内の建物、外観は大丈夫そうに見えても、基礎がやられて意外と危ない。
- 1度で終わるはずの地震(4/14)が、収束するどころかもっと大きな本震が来て、おびたしい余震も続いて、心理的な不安が大きくなり、帰れなくさせているとのこと。
- 日隈代表の話、今後の課題として、よその避難所を訪ね、あるいは在宅の障害者を探し、どういう支援が必要かを探ることとのこと。
- また、ヒューマンネットワークの建物自体も問題。
 - ① 本部、ヘルパー派遣事業所はコンクリート10F建てだが、なんかおかしい、このまま戻れるのか不明。
 - ② 地活の建物は、水道管が破裂、修復長期化の見通し。
 - ③ 相談支援事業所の木造家屋、ここが意外と大丈夫だった。
- ヒューマンの片付けもそっこのけで、避難した障害者の支援に明け暮れ、てんてこ舞い。

8

各団体の現状と課題 (1/3)

▼市内の生活介護支援センター(通所)

最重度の利用者が20名ほど。内半数は避難所生活。天草や福岡に避難した人もいる。支援員も被災して気持ちがピリピリしている。避難所から通うのが4名。

送迎は出来ているがセンターの水道が出ないので風呂が使えてない。お湯を沸かして行水で対応。

▼相談支援事業所連絡会

浸水して機能停止した事業所が1ヶ所。市の委託事業所は利用者の安否確認が出来ている。計画相談のみ受けてる事業所は安否確認が出来てるか、不明。

▼きょうされん

70事業所、1000人利用者、400人職員。4/21までに全利用者と連絡がついた。事業所が避難所のようになるところが県内に5ヶ所ある。利用者と家族と一緒に避難してきている。一週間が過ぎて職員も疲弊している。

10

各団体の現状と課題 (2/3)

▼ヒューマンネットワーク熊本

昨日の段階で、18名の利用者が熊本学園大学のホールに避難中。家に帰りたい人も増えて来てるが家の片付けが出来てなく、片付けを手伝ってくれる手助けがほしい。名簿が家の固定電話の人も多かったので、連絡がつかない人もいる。**学園大との元々のパイプが功奏**

▼視覚障害者団体から

熊本市に要援護者名簿の提供を要請したところ4/20出してくれた。500~600人くらい。名簿を利用して安否確認を進めたいが電話かけが3組でしか出来てなくなかなか進まない。家族と避難所で暮らしてる人で、日中家族が仕事へ行くとトイレに行けないという悩みがある。家族と車中泊の人も何人かいる。

▼難聴者、中途失聴者から

会員50名の内1名まだ安否確認ができていない。車中泊2名、避難所4名。避難所ではテレビに字幕がなく情報が得られない。補聴器等に電池が無くなると全く分からない。何とか電池を集めている。

11

各団体の現状と課題 (3/3)

▼発達障害児の支援団体(リルビット)

車中泊してても変化に対応できず、危険な家に戻ってしまう子どもがいる。子どもが地震に怯えていて母親から離れず片付けが出来ない。主治医が変わると動揺する子もいる。感覚過敏で避難所の音や臭いに耐えられない人もいる。困っていることを発信出来てない当事者が少なからずいる。安心して過ごせる居場所や悩みが共有できる場がほしい。一時的にでも宿泊できる場所を貸してほしい。

▼熊本市身障福祉センター

発災当初は、通常どおり1泊1000円を徴収して「体験ルーム」に障害者の避難を受け入れ。障害者団体からのクレームあり、文句言う人は0円、言わない人は1000円取っていた。市からの避難所指定を受けてからは全員0円。現在市内で唯一の福祉避難所。

※学園大花田先生のぼやき…**障害者を受け入れてくれと、福祉避難所から福祉避難所でない大学に回してきよる(本末転倒)**

12

熊本市社会福祉協議会 東区事務所

田上さんからの聞き取り

- 現在、社会福祉協議会東区事務所では高校生、大学生ボランティアに家の片付けをしてもらっている
- 社協が把握している脳梗塞の後遺症で身体障害の方が1名いるが、その方は周囲住民の支援を受けることができています。
- 各避難所には、これから一斉に連絡をしていき、支援に必要な情報を洗い出す。避難している障害者の方がどういった支援を必要にしているのかも聞き取っていく
 ➡わかり次第、望月携帯に電話連絡をしてもらうようお願いした
- 知的障害の方の支援は育成会の方でとりまとめている
- 市役所の方で支援の依頼表を取りまとめているようだがまだ社協の方には連絡が来ていない
- 障害者施設が避難所として稼働しているところもある
- 現在障害児の親から相談を受けることが最も多い。職場に連れていっている人も多い。

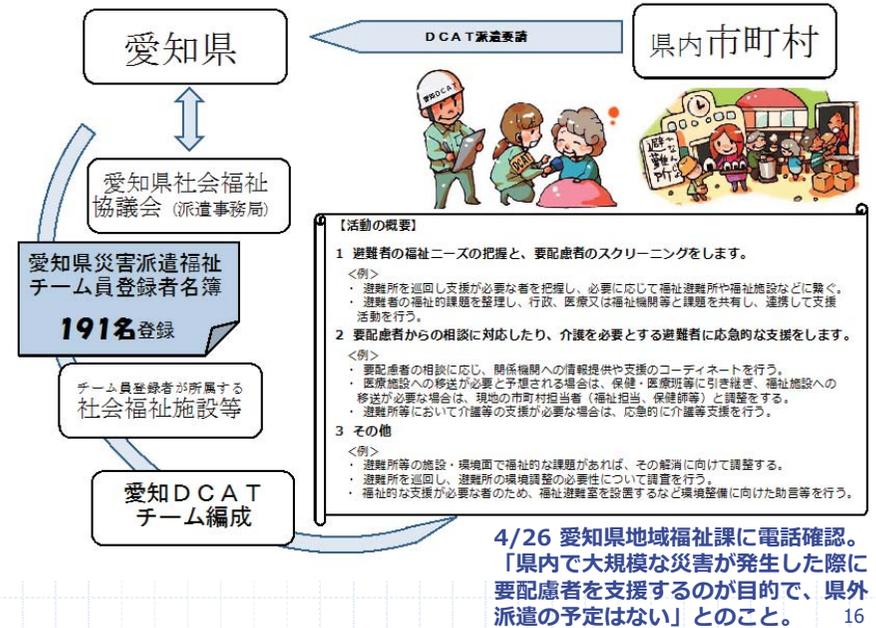
13

熊本市北区役所 大久保さんからの聞き取り

- 北区は地震の被害少なめだったが、北区南東にある龍田区域にて被害があり、龍田西小学校に650人位の人が避難。
- 避難所に避難されている方の数は、分かっているのは1時現在で2020人。ただし、夜は5000人以上。昼は働きに出て、夜は避難所に来られる方が多い。
- 北区では、北区役所に避難されている方が100人位、北区役所から中央区に掛けてにある各避難所には合計300人位。
- 北区役所の本部が把握している避難所は31箇所、各避難所からの要請に対応している、主に物資を送っている。
→各地からの物資を1度北区役所に集約し、各避難所に送る形。
- 被害状況は瓦が落ちた等の簡単な事は写真等で報告を受けているが、全壊半壊についての難しい判定はこれから行って行く。

14

愛知県災害派遣福祉チーム（愛知DCAT）



熊本市北区役所 大久保さんからの聞き取り

- 福祉避難所については設立しようという話しは出ているが、どこの避難所にするかはまだ決定していない。
→被災した障害者の中には、病院やコミュニティセンターに避難されている方もいる。
- 道路封鎖の影響により、国道3号等に渋滞が起きている。
- 物資は国や各地からの支援を頂き、不足の報告はない。
→水については、避難所に今は多くある、今は少なくなったという波はある、水使用の調整は各避難所で行っている。
- 小、中学校の再開については、4月23日(土)~24日(日)の避難状況を見ながら決定。
- 衛生面、手洗い、トイレ等の生活用水については不足は聞かない、学校ではプールの水を使用したりしている。

15

「みんな一緒」という名の排除—合理的配慮の課題

- 災害の時、住民全員が要援護者だ！
- 障害者だけが大変なのではない！
- わがままを言うな！
- 奇声を発するな！あっち行け！
- ここ（避難所）はあなたのような人が来るところじゃないのよ

災害弱者対策の環境は整ったはずなのに

- 2013年、災害対策基本法改正による要援護者名簿の活用
- 2015年、防災世界会議で示されたインクルーシブ防災の考え方
- 2016年、施行された差別解消法による合理的配慮の提供義務

17

全般に－支援課題について

- 東日本大震災と比べて、被害は局所的、阪神淡路よりエリア狭い、中越・能登・中越沖くらい
- ニーズは刻々と変化（足りない→足りてるの繰り返し）
- くまもと…もともと市民運動、地元のつながりが強い、現地の人が機能している
- 応援の仕方を工夫…足りないところだけを応援（ex.コーディネートのノウハウ、会計実務）

18

熊本県内の障害者団体が集まり、熊本地震で被災した障害者を支援する「被災地障害者センターくまもと」を設立した。東日本大震災の被災地で支援活動に取り組んできた全国組織「日本障害フォーラム」（JDF）と連携して活動する方向で、熊本市で25日に初会合を開く。センターは20日に発足。身体、精神、知的、視覚、聴覚、発達などさまざまな障害者団体や家族会、研究者たち約20団体・個人が参加している。避難所にいる障害者のほか、自宅にとまっていたる障害者を探して被災による影響を掘り起こし、対応する。具体的には各団体が情報を共有し、食料など支援物資を届けたり、家の片付けを手伝ったりする。また、被災者の要望を聞き取って行

障害者支える組織発足 熊本県内の集結

政に声を届けるほか、専門知識のあるボランティアの参加を呼び掛け、資金提供も募る。センターによると、避難所ではトイレに行ったり、食料配布の行列に並んだりすることが難しい障害者が多い。介助の人手が足りずに放置され、自宅に戻る人もいる。各地に福祉避難所は設けられているが、交通手段がなかったり、付き添いがいないと断られたりするケースもあるという。

会長に就任した「くまもと障害者労働センター」の倉田哲也代表は「JDFと連携して東日本大震災での支援のノウハウを学びつつ、熊本の事情に合わせた態勢を築き、横のつながりで被災者を支えたい」と話した。同センターは096(234)7728。

震災避難 障害者への支援確保を

2016/4/24朝日新聞社説

「ホールに段差があり、車いすの人は入れないと断られた」「どこからも情報が来ず、1週間、車中泊を続けた」熊本市を中心に続く震災で、命をつなぐはずの避難所に入れない障害者が続出している。一般の避難所では生活が難しい障害者や高齢者には、「福祉避難所」が用意されるはずだった。災害に備えて、あらかじめ市区町村と協定を結んだ学校や福祉施設などである。だが、震災の現実の前には、うまく機能しなかった。熊本市では、避難の際に手助けが要する「要支援者」の名簿に登録された人は約35,000人いる。これに対し、福祉避難所の協定をもつ施設は176あったが、実際に受け入れる施設はなかなか増えなかった。ケアする人が被災して人手不足だったり、建物が壊れて水道も止まったりと、施設の環境が整わなかった事情がある。ボランティアを募り、22日までにやっと33カ所が開設した。だが入所者は80人超えどまり。介助の余裕がなく場所の提供しかできない、と嘆く施設もある。福祉避難所に入れない障害者らにとって、長引く震災は深刻な生活苦をもたらす。安否確認も思うように進まなかった。こうした中、熊本市の熊本学園大の活動が目目されている。最大60人ほどの障害者や高齢者を受け入れ、存在感を示す。もともとはグラウンドが広域避難場所に指定されていたただだったが、相次ぐ強震で住民が集まり始めたため、4教室を住民に開放した。さらに校舎内の大ホールを要支援者専用にし、大学関係の介護福祉士や学生ボランティアらが24時間、避難者を見守る態勢をつくった。今月施行された障害者差別解消法は、「合理的配慮の提供」を公的機関の義務と定めている。障害者から社会的な障壁を取り除く要請があれば、無理ない範囲で対応する。その精神を実現する先駆的な試みだ。避難所づくりに携わった同大の教授2人は障害者・支援者団体と協力して「被災地障害者センター」も設けた。一つの避難所に集約するのではなく、各地の障害者に適切な情報を提供する拠点となり、元の生活に戻るまで必要な支援を続ける。避難者は今も8万人近い。その中で障害者らは、健常者と同じように暮らすのは難しい。要支援者名簿をもとに安否を確認する仕組みや、広域で福祉施設同士が職員を派遣し合う仕組みなどを平時から準備したい。日本中どこで起きるかわからない「次の災害」に備えて。

東事務局長報告

4月25日

午前9時、JDFの一行（幹事会議長／藤井、DPI／崔、育成会／長瀬、リハ協／原田、みんなネット／小幡）を熊本空港でピックアップ。2台に分乗して、まず学園大の避難所に案内、障害があっても排除されないインクルーシブな避難所を目指していることを説明。

午前11時、県庁訪問。県庁側（伊豆野子ども・障がい福祉局障がい者支援課審議員／、井上同課長、牛島同課社会参加支援班課長補佐）に、藤井／原田より東日本大震災時の活動を説明、東より公的支援の網の目からこぼれ落ちる障害者支援のために「被災地障害者センター〈まもと〉」を設立したことを報告、障害者の情報を開示、緊急車両の指定などを要望。県側から、支援体制の環境整備や県主催の情報交換会の開催など一定の前向きな回答がありました。

午後1時から県の福祉センターでJDFと県内障害者団体等との意見交換会を開催。

JDFのほか、地元から 県精神障害者福祉会連合会、豊かにする会、きょうされん、県発達障害当事者会、県聴覚障害者情報提供センター、県視覚障がい者福祉協会、ヒューマンネットワーク熊本、全脊連熊本県支部、熊本市心の障害者家族会、NPO法人あゆみ、福祉生協、NPO法人凹凸ライフデザイン、NPO法人就労特化型支援団トリニティ、県身体障害者福祉団体連合会、県身体障害児者施設協議会、県ろう者福祉協会、熊本障害者労働センターの17団体。県庁から伊津野、牛島、中島の3氏。その他県外からの支援団体や個人あわせて総勢40名ほど参加。

熊本県のろう協の松永さんは、KDFの会長として広く参加と協力を呼びかけていただきましたが、詳細を書く余裕はありません。

大枠としては、「被災地障害者センター〈まもと〉」は

・ゆめ風基金からの資金提供とJDFからの人的支援を基礎に、KDF（〈まもと障害フォーラム〉）に参加している団体をはじめとして幅広く結集し、

・地元の障害者団体がそれぞれの活動は活動として行いながら、お互いに支え合あうこと

・特に、福祉の支援に結びつきの弱い在宅障害者については、これを掘り起こし、そのニーズに応える支援活動を展開すること

などが多くの共通理解になったと思います。

そのあと、県の福祉事業団の施設が福祉避難所の指定を受けたことにより娯楽室、プレイルーム、訓練室を避難所として開設しているが手狭になっているので、JDFが避難所指定より前に予約した会議室をどう利用するかについて、JDFと福祉センター、点字図書館、聴覚障害者情報提供センター、福祉生協との間で調整会議を行い、JDFからの支援者の派遣が始まるまでは、予約した会議室を利用してもらおうという結果になりました。

その後、JDFのメンバーとともに熊本市役所を訪れ、対応に出た田中障害支援部長に対して、県の訪問の時と同趣旨の説明と要望を上げたところ、既に障害者の公的データについては、視覚障害については開示していることを確認後、解散。

なお、被災地書外車センター〈まもと〉に、いくつかのSOSがあり、ヘルパーを派遣するなど、支援活動を開始。

4月26日

JDFのメンバーとともに、西原村役場にて日置村長と面談。やはり県の訪問の時と同趣旨の説明と要望を上げ、村の社協や民生委員と協力しながらやりましょうと前向きな返事を戴きました。

村役場の横には剣道場と柔道場の体育館があり、避難所となっていたが、車いすの男性はそこを利用しているが、寝泊まりは車中で行っているとのこと。ほかに障害者はほとんど見ないとのこと。でした。連絡先を交換し、何かあったらこちらに連絡するように依頼。西原村のキーパーソンと動いてくれそうでした。

なお、彼が住む役場の南側の布田地区はほとんど壊滅状態でした。

その後、益城町に向かいましたが、益城の寺迫の知人の高齢者宅にしてみました。その地域は、ほぼ全域が壊滅状態でした。益城町の健康福祉センターは、町役場が立ち入り禁止の状態になっているので、町役場の対策本部が置かれていましたが、同時に多くの人たちの避難所となっていました。しかし、障害者はほんの数人しか確認されていない状態で、ほんとにどこに行ってしまったのか！！でした。

町長さんには会えませんが、森永教育長と福祉課長さんに対して、これまで同様の話をし、町の社協や民生委員と協力して支援を行うことに前向きな感じを受けました。

そのご、JDFのメンバーと、今後も協力し合いながら進めていきたいと思います。と、分かれてきました。

なお、今日、5台くらい独自の移動手段を確保したいと思っていましたが、まずは8人乗りくらいのワゴンを納車してもらいました。

今日までの状況は概略以上の通りですが、早く実働に入れればと思っています。

<熊本地震> 障害者避難 東北教訓に整備

2016/4/30 河北新報

http://www.kahoku.co.jp/tohokune.../201604/20160430_73010.html

熊本地震の被災地で、高齢者や障害者らを受け入れる福祉避難所が十分に機能しない中、熊本市の一般の避難所では唯一、熊本学園大が障害者を受け入れる態勢を整えている。東日本大震災の被災地で障害者の避難の厳しい現実を目の当たりにした同大の教授2人が、教訓を生かして運営に乗りだした。

同大は地震発生翌日の15日、一般の避難所として大教室4つを開放し、最大で約700人が避難した。

障害者用の避難所は14号館1階ホールで広さ約600平方メートル。本震発生の16日に開設し、最も多い時で約60人が利用した。29日は約20人の障害者が身を寄せた。

通路は幅2メートル以上あり、車いすも楽に通れるのが特徴。介護福祉士の資格を持つボランティアやヘルパーが24時間常在し、トイレなどの介助に当たる。同大の学生が話し相手になったり、食事の介助をしたり避難者の様子に目を配る。

右脚が不自由な無職森川信昭さん（58）＝熊本市＝は「ヘルパーや学生がいて夜も安心できる」と話す。

障害者の受け入れは、同大社会福祉学部の花田昌宣教授（社会政策学）と、障害者の人権を研究する東俊裕教授が提案した。

2人は東日本大震災の1カ月後に岩手、宮城、福島3県の沿岸を回り、被災した障害者の状況を調査。孤立した障害者が多かったことを教訓に今回、自主的に対応した。

熊本市内の障害者ら要支援者は約35,000人。市は約1,700人の受け入れを想定し民間の高齢者施設など176施設と協定を結んでいたが、29日時点で開設された福祉避難所は54施設。想定を上回る被害規模で、受け入れは258人とどまる。

花田教授は「スペースの確保が最も重要。学校の教室がバリアフリーであれば開設できる。発生直後3日間を乗り切れればスタッフは集まる。一般の避難所でも障害者を受け入れる発想を持たないといけない」と話す。（報道部・氏家清志）

（写真）一般の避難所として唯一、被災した障害者を受け入れている熊本学園大＝28日、熊本市



< 熊本地震 > ボランティア派遣要請

2016/5/1 15:00 ゆめ風基金八幡さんからのメール

八幡です。

被災地障害者センターくもとが応援ボランティア募集を開始しました。
福祉経験 1 年以上で、1 週間程度以上入って下さる方が助かります。

寝るところはありますが、布団がないので、寝袋持参をお願いします。

詳しくは熊本障害者労働センターにお問い合わせください。

〒 8 6 1

熊本市東区长峰西 2 - 6 - 1 1

電話 0 9 6 - 2 3 4 - 7 7 2 8

e-mail : hisaitikumamoto@gmail.com

やることは当面障害者のニーズ調査や、被災地障害者センターくもとの広報活動となります。

現地に行ける方はよろしくをお願いします。

< 熊本地震 > 仮設住宅情報

2016/4/30 14:06 ゆめ風基金八幡さんからのメール

熊本市は仮設住宅を建設せずに、アパートなどの借り上げで、全てみなし仮設で対応するという。

でもすでに中央区や東区など利便性の良い物件は無くなっているという。

このままだと、障害者や高齢者など、不動産やに行くことの難しい人たちが、利便性の悪いところしか物件を見つけれないという事態がおきてしまう。

熊本市は仮設住宅の建設場所がないというのが大きな理由のようだ。

隣の益城町などはプレハブ仮設の準備中ということだ。

2016/5/2 7:00 ゆめ風基金八幡さんからのメール

熊本市、仮設住宅 300戸建設へ。

以前熊本市は仮設住宅を建設しないと書きましたが、ここへきて建設を決めたという情報が入りました。現在の避難者1万2千名に比べそれでも低い数ですが。

被災地障害者センター熊本は5/1からニーズ調査の開始。

やはり動き出すと色々情報が入ってくるし、それなりのニーズが出てきます。

ただ東日本の時と比べると、調査もセンターの周知も比較的短時間で終わると思われま。

その後にやってくる被災障害者のニーズにどれだけ応えられるかがカギとなります。

全国の応援待ってます。